

地域課題の解決に向けた取組

地域林業の省力化・低コスト化への取組と地域への普及

網走西部森林管理署
西紋別支署



1. はじめに

網走西部森林管理署西紋別支署は滝上町にあり、オホーツク管内の5市町村（紋別市・滝上町・興部町・雄武町・西興部村）を管轄しています。

流域内の森林の多くは、自然環境や生物多様性に配慮した持続可能な森林経営を行っており、SGECによる森林認証を取得しています。また、平成29年度から「林業成長産業化地域創出モデル事業」の林業成長産業化地域に指定され、森林資源の付加価値化や人材の育成、森林認証材の販売促進に取り組んでおり、林業に力を注いでいる地域です。

2. 地域課題への取組

苗木の植付や下刈などの造林作業は大型機械で行うことが困難なため、作業の大半を人力で行っています。

しかし、夏季の炎天下、腰に負担のかかる姿勢で行うなど過酷な労働条件のため、若い林業労働者の確保が難しく、高齢化が進んでいます。



腰に負担のかかる植付作業

今後、収穫期を迎え主伐が増えることが予測される中で、森林を健全に保ち、森林資源を継続するためには、現在の造林作業の方法には課題があります。

一方、森林づくり全体のコストの中で、地拵・植付・下刈作業にかかるコストの比率が約7割とその多くを占めています。

そのため、当支署では林業における課題である労力の軽減、造林コストの縮減に取り組んでいます。

3. 低密度植栽試験を実施

当支署では平成28年春から苗木の本数を減らし、労力を軽減する施策について検証するため、低密度植栽試験地を設定し、調査を行っています。

図のように通常行われているヘクタール当り2000本植を基準（対照区）として、植栽本数を減らして苗間・列間を変えたプロットを設定しました。



低密度植栽試験地の設定区分

各プロットで、下刈作業時間を計測する「下刈工程調査」、苗木の根元径・苗高を計測する「生長量比較調査」、広葉樹資源確保のため残幅における「広葉樹発生活況調査」を実施しています。これら3種類の調査により低密度植栽のメリット・デメリットを把握し、今後の施策に役立てることであります。

4. 積極的な情報発信

当支署では今年4月に国有林のフォレストアスター活動情報誌「にしもん森林だより」を創刊しました。

国有林では先に述べたような地域課題解決に向けた取り組みや民有林との連携など様々な活動を行っていますが、その情報を地域へより積極的に発信していくため、情報誌を作成し、管内各市町村や森林組合等に配布していくこととしました。不定期発行ですが、地域の役に立てる情報を随時発信していけるように努めていきます。